

探訪 北の風景 14

中心市街地の集客拠点 まちなか交流センター 「ココトマ」

苫小牧市

青木和弘

JR苫小牧駅南口の東隣に昨年オープンした、まちなか交流センター「COCO TOMA（ココトマ）」が、高校生の放課後の、自習の場として人気を集めている。駅やバスターミナルに近いうえ、ライブラリーラウンジが無料で使え、持ち込みの飲食もできるから便利なのだ。さまざまな趣味の本や図鑑、写真集など約1000冊が並び、中には高校生用学習参考書まである。午前9時から午後10時まで利用できるが、定期試験の前には土日でも通常の44席では足りなくなっており、貸しスタジオを開放して対処することもあるという。ココトマは中心市街地の集客拠点と位置づける

市の施設で、市内の広告会社「オーテイス」が指定管理者として運営にあたっている。

床面積は790平方メートルで、ライブラリーラウンジのほかに、カフェと、会議、講習会などができ、ダンススタジオにもなる「レンタルスタジオ1」と、調理台が5台あって料理教室などに使える「レンタルスタジオ2」がある。1日約700人が利用し、昨年11月1日の開業から5カ月半で10万人を突破した。ココトマとは公募で選ばれた施設の愛称で、「ココからトマコマイの魅力を発信」という思いが込められている。

カフェで力を入れているのが東胆振1市4町（苫小牧市、白老町、厚真町、安平町、むかわ町）の特産品のPRだ。苫小牧産のシメジやホッキ、王子サーモン、安平産モツツアレラ、白老牛ハンバーグなどを使った軽食メニューがある。

「苫小牧産シメジベーコンホットサンド」は単品で税込み518円。ドリンクとサラダ、フライドポテトのセットが付いて同842円。「厚真産桜姫鶏とむかわ産じやがいものクリームスープ」同378円だ。コーヒースタンドは同302円、メロンソーダ同194円といった具合だ。6月1日から7月31日は「東胆振満喫フェスティバル」産地消の輪を広げよう」と銘打って、工夫を凝らした限定メニューが登場する。

苫小牧市は、郊外型のショッピングモールに客



さまざまなイベントの案内が掲示されている

が流れ、駅周辺の大型店が次々に撤退し衰退が著しい。そこで、将来の人口減少や超高齢社会に対応した「持続可能なまちづくり」の実現を目指して取り組んでいるのが、11年から始まった「CAP（まちなか再生総合プロジェクト）PROGRAM PART I」だ。3年区切りで事業評価を実施して、昨年度から「CAP PROGRAM PART II」が始まっている。これらの事業の一つがココトマの取り組みである。

中心市街地活性化のワークショップが切っ掛けで、図書館とカフェの要素を併せ持つ施設の具体化を「検討委員会」でまとめ、12年、市に提言した。市は制度設計をして13年に条例化、14年に予算が付いた。ココトマの内装には約1億円、備品には2000万円ほどかかった。



定期試験が近づくと高校生たちであふれるライブラリーラウンジ



ココトマはJR小牧駅東隣のビルの1階にある

この間、中心市街地で市民が主催するイベントが盛んに行われるようになった。「とまこまい得する街のゼミナール」「駅前歩こう倶楽部」のウォーキングの会、「とまこまいっしょ！グランプリ」、歩行者天国などの「いきいきまちなかイベント」、「野外音楽ライブ」には延べ約9000人が来場した。こうした取り組みで、中心市街地の歩行者通行量や、路線バスの乗降客数の改善にも成果が現れてきたという。

市は、今後の苫小牧駅南口正面の再整備について、まちの顔となる「環境空間・交流機能」とし、中心市街地のにぎわい創出のため各種イベントを行う空間と位置付けるといふ。人の流れが変わって、駅前に賑わいが戻り、新しい北の風景が生まれてくることを願ってやまない。